

2018 防災フォーラム・函館

北海道沿岸の波災害・減災

主催：自然災害研究協議会北海道地区

日時：3月5日（月）17時～19時

場所：函館駅前 フォーポイントバイシェラトン函館 3F ラベンダー1

プログラム

1. 北海道太平洋・日本海沿岸の津波の発生確率

北海道大学大学院工学研究院 教授 山下俊彦

津波は元来、発生頻度が少なく、発生確率自体を議論するのが難しい。しかし、合理的な津波防災・減災を考える上では、発生確率の議論が必要不可欠である。太平洋側では、主に日本海溝部でのプレート境界型地震に伴う津波が、約70年間隔と比較的高頻度に発生する。一方、日本海側では明確な海溝はなく発生間隔も500年以上と低頻度である。本講演では、大きく特性の異なる太平洋沿岸と日本海沿岸の津波の発生確率を、累積発生確率を基に統一的に説明し、太平洋と日本海両方で発生した津波の影響を受ける函館もある津軽海峡での津波の発生確率についても説明する。

2. 日本海を通過する冬季爆弾低気圧による高波リスク

北海道大学大学院工学研究院 助教 猿渡亜由未

近年爆弾低気圧に起因する高波の規模が増大傾向にあり、例えば道南の例では江差町やせたな町において爆弾低気圧に起因する高波被災事例が報告されている。爆弾低気圧に起因する高波はこれまでの典型的な冬季の波浪とは波向きや発達率などの特徴が異なるため、過去の来襲波を想定した防災対策では不十分となる事が懸念される。本発表では日本海で発達する爆弾低気圧による高波の特徴について説明する。

【問合せ先】

北海道大学大学院工学研究院 山下

Mail : y-toshi@eng.hokudai.ac.jp

Tell : (011) 706-6184